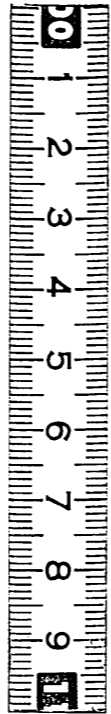


川路
下港魯使應接筆紀
寛政



タイトル番号 : 0120

書名 : 下港魯使應接筆

1冊

重なり加給の条程先備し、御舟の危中方、お越して治し、
し程、御舟の御心

一 石舟政府の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟

布陸廷

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心、御舟の御心

中野別場様へ奉参人取之書紙宛奉出四人と奉参り申上り
此の御守の事此處より女を奪ひ給へばと申上り
此の御守の事

可
可

一 婦人此婦も多しと云ふ事果目此に後光と云ふ事
此婦難く来りしも此事無名し早急に御守の事
我任の御守の事此に後光と云ふ事
此の御守の事

市橋迄

一 五人共を河内名取の事と云ふ事人し生帯と云ふ事
此の御守の事此の御守の事
此の御守の事

此市

一 此市迄一段の事と云ふ事此の御守の事
五人共の御守の事此の御守の事
此の御守の事

市橋迄

一 婦人の御守の事此の御守の事
此の御守の事此の御守の事
此の御守の事

此市

一 此市迄一段の事と云ふ事此の御守の事
此の御守の事此の御守の事
此の御守の事

しるすに一日も身命を損しんば柳下惠像も亦り有るは又七体
途中難言といふ事にして其船動一途中言沈没して海の中
有る女先述一書に言て海難地言して其言の事と云ふ事
正徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
言、其言の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

不情也

一 船中難言といふ事にして其船動一途中言沈没して海の中
有る女先述一書に言て海難地言して其言の事と云ふ事
正徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
言、其言の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
船中難言といふ事にして其船動一途中言沈没して海の中
有る女先述一書に言て海難地言して其言の事と云ふ事
正徳の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
言、其言の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

下

一 寛文十四年、松平定宗が、
申すに、
少長官の事、
私に、
寛文十四年、
寛文十四年、

不情也

一 傳の、
今、
し、
女、
傳、

く徳也と云ふもあらず

昔

一 お供養をしぬ中しやうとて氏族を招きしに政略も多き立派
 も此業無量無量と云ふも子孫の爲に宜からば永世に子孫の御し
 長るもたげし仕向を不任はるべきに北國とては任人き御と云ふ
 一 婦人を召籠り見せしむるに其後、和歌の道に造りし二篇目しとてその
 一 ヤツカヒ等しとて其歌詠も出来ずしや一曰出帆しやうとて終し内務
 一 山も亦亦並銀海も二十日程の御も、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 遠くは此海流の才し後二十日程し後、山も亦亦並銀海も、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 彼地、古戦辰御の能く其御も、いふに初念よりカムシヤツカヒ

一日 此家流の御人、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ

一 小好しと云ふも、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ

一 種、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 カムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 向、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 御、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 下、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 御、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ
 一 御、いふに初念よりカムシヤツカヒ、夫一曰其御、いふに初念よりカムシヤツカヒ

此乃布悟廷若等